

## レバノン世論調査結果解説

### キリスト教徒にとってアウン氏が大統領候補 1 位

ベイルート調査情報センター <http://beirutcenter.net/>

翻訳：青山弘之、溝渕正季

監修：浜中新吾

アウン氏の支持率は「キリスト教徒の権利」に関する演説を受けて上昇。  
ジュマイイル氏はアルメニア教徒の支持を得られず、レバノン・カターイブ党支持者のうちの 38%がバールード氏とジャアジャア氏を選ぶ

ミシェル・アウン氏がレバノンの圧倒的多数のキリスト教徒から大統領候補として支持され、2位のサミール・ジャアジャア・レバノン軍団代表を大きく引き離していることが世論調査から明らかになった（訳注）。アウン氏の支持率は、レバノン国家における「キリスト教徒の権利」を求めた最近の演説を受けるかたちで上昇したとみられている。

ベイルート調査情報センター（Beirut Center for Research and Information (BCRI)、مركز بيروت للأبحاث والمعلومات）が行った世論調査では、約 36.1%のキリスト教徒が変化改革ブロック代表のミシェル・アウン議員を大統領に選んだ。

レバノン軍団のサミール・ジャアジャア代表は回答者の 16.7%の支持を獲得し、マラダ潮流代表のスライマン・フランジーヤ議員（13.8%）、ズィヤード・バールード元内務地方行政大臣（13%）がこれに続いた。アミン・ジュマイイル元大統領は 3.5%の支持しか得られず 5 位に転落、6 位はブトルス・ハルブ通信大臣（3.5%）で、それ以外の候補者も約 13%の回答者から支持を得た。

7 月 1 日から 8 日にかけて実施された今回の世論調査では、キリスト教徒の権利を要求した 7 月 3 日の演説を受けるかたちでアウン氏の支持率が上昇した。

2014 年 2 月に『アフバール』紙に掲載されたベイルート調査情報センターの世論調査結果と比べると、アウン氏とジャアジャア氏ともに若干の支持率増加が見られた。なお、前回の世論調査では、回答者に「アウン氏、ジャアジャア氏、フランジーヤ氏、ジュマイイル氏、ハルブ氏」の中から 1 人を選ばせたが、今回の世論調査では候補者氏名を選ばせるのではなく、回答者に氏名を限定させた。

今回の世論調査において特筆すべき結果は以下の通りである：

- 大統領選挙がアウン氏、ジャアジャア氏、フランジーヤ氏、ジュマイイル氏のみによって争われた場合、回答者がどの候補を選ぶかという問いに対する回答からは、フランジーヤ氏がバルード氏の支持者のうちの 6 ポイントしか獲得できなかったことが明らかとなり、ここから、フランジーヤ氏が前回の世論調査結果よりも支持率を低下させたことが説明できる。
- アウン氏は、キスラワーン郡（レバノン山地県）でもっとも高い支持を獲得し、バルード氏はトリポリ郡（北部県、標本数微少）を除くすべての選挙区で支持を得た。またフランジーヤ氏は、ブシャッリー郡（北部県）で回答者の約 23%の支持を獲得する一方、ジャアジャア氏は、ズガルター郡（北部県）で約 15%の支持を獲得した。
- アウン氏は、40～49 歳、50～59 歳の二つの年齢層で最高支持率（39%）を獲得し、ジャアジャア氏は 30～39 歳の年齢層で最高支持率（21%）を獲得した。一方、フランジーヤ氏は、20～29 歳の青年層において最高支持率（17%）を獲得し、バルード氏は 40～49 歳の年齢層で最高支持率（19%）を獲得した。
- ジュマイイル氏は 2007 年 6 月のマトン郡（レバノン山地県）での国民議会補欠選挙での敗北後（2007 年 8 月）に行った演説がアルメニア教徒の処遇をめぐって論争を呼んだことが影響するかたちで、アルメニア教徒の回答者からの支持をまったく得ることができなかった。
- バルード氏を支持する回答者の 70%は女性で、また女性支持者の割合はフランジーヤ氏が 59%、ジュマイイル氏が 21%だった。
- バルード氏は無党派層からもっとも多く支持を獲得し、その支持率は 35%に及んだ。フランジーヤ氏がこれに続き 15%の支持を獲得、50%の無党派層がそれ以外の立候補者を支持した。
- バルード氏がレバノン・カターイブ党の支持者の 18%の支持を獲得した。彼らはジュマイイル氏ではなくバルード氏を選んだことになる。またバルード氏は、すべての政党の支持者から支持を獲得した。また、レバノン・カターイブ党の支持者の 20%も、ジュマイイル氏ではなくジャアジャア氏を選んだ。

世論調査は、キリスト教徒回答者約 800 人を対象とし、標本はすべての郡に以下の通り配分された：ブシェッリー郡 24、アッカール郡 42、トリポリ郡、ミンヤ郡およびディンニヤ郡 12、ズガルター郡 43、バトルーン郡 41、クーラ郡（以上北部県） 28、ジュベイル郡 52、キスラワーン郡 80、マトン郡 133、バアブダー郡 64、アレイ郡 34、シューフ郡（以上レバノン山地県） 45、バアルベック郡 12、ザフレ郡、西ベカーア郡郡およびラーシャイヤ郡 14（以上ベカーア県）、ジェッズィーン郡 33、ザフラーニー郡（南部県） 12、マルジャアユーン郡、ピント・ジュベイル郡およびナバディーヤ郡（以上ナバディーヤ郡） 12。調査は直接面談と電話での聞き取りを通じて行われ、無作為抽出法に基づいて標本抽出を行

った。なお標本のサイズでは、各郡でどの候補者がどれだけの支持を得ているのかを厳密には把握できず、あくまで全体的傾向がどのようなものなのか、その印象を示しているに過ぎない

質問 1	誰を大統領に推薦しますか？	ミシェル・アウン	36.1%
		サミール・ジャアジャア	16.7%
		ズィヤード・バルード	14.4%
		スライマーン・フランジーヤ	12.4%
		アミン・ジュマイイル	3.5%
		ブトルス・ハルブ	3.4%
		その他	13.5%
質問 2	大統領選挙がミシェル・アウン、サミール・ジャアジャア、アミン・ジュマイイル、スライマーン・フランジーヤだけで争われるとしたら、誰を選びますか？	ミシェル・アウン	39%
		サミール・ジャアジャア	21.5%
		スライマーン・フランジーヤ	20.2%
		アミン・ジュマイイル	6.5%
		誰も選ばない	12.8%

## 訳注

レバノンでは 2014 年 5 月にミシェル・スライマーン前大統領の任期が切れて以降、大統領不在の状態が続いている（現在はタマーム・サラーム首相が暫定的に大統領権限を代行している）。18 もの宗派がひしめき合う「モザイク国家」レバノンでは、大統領はキリスト教マロン派と定められており、国民議会議員の投票によって選出される。任期は 6 年。投票に際しては議員定数（128 人）の 3 分の 2 の定足数（86 人）が必要とされており、大統領の任期が切れるまでの 2 カ月の間に議会を何度も招集して投票できる。第 1 回目の投票では議員定数の 3 分の 2 以上（86 人以上）の票を獲得した候補者、それ以降の投票では過半数（65 人以上）の票を獲得した候補者が大統領に選出される。しかしながら、きわめて流動的なシリア情勢の影響を受け、国民議会は 2015 年 7 月 15 日に 26 回目の大統領選挙を行うも、またもや新大統領の選出に失敗、投票は 8 月 12 日の第 27 回選挙に再び持ち越されることになった。

## 原文

مركز بيروت للأبحاث والمعلومات

قراءة في نتائج الاستطلاع: عون أول للرئاسة بيم المسيحيين

<http://beirutcenter.net/Default.asp?ContentID=861&menuID=46>